チャレンジショップの目玉『餃子大明神』に、観光客もお参り

宇　都　宮　商　工　会　議　所

機関名	宇都宮商工会議所	
所在地	栃木県宇都宮市中央３－１－４	
電話番号	０２８－６３７－３１３１	
地域概要	(1)管内人口　　４４万７千人	(2)管内商店街数　　６９商店街
事業の対象となる商店街の概要	(1)商店街数　　２４　商店街 （ＴＭＯ構想計画ｴﾘｱ内）	(2)会員数　　１，０５５商店 （ＴＭＯ構想計画ｴﾘｱ内）
	(3)空店舗率　　７．２　　％	(4)大型店空き店舗数　２　　店
商店街の類型	1.超広域型商店街　2.広域型商店街　3.地域型商店街　4.近隣型商店街	

【事業名と実施年度】

平成 13 年度	空き店舗対策事業	チャレンジショップ、情報提供
	総事業費	18,715 千円
	駐車対策事業	循環バス事業
	総事業費	32,766 千円

【事業実施内容】

１．背景

（１）駐車対策（都心循環バス実験運行事業）

平成 12 年度ＴＭＯ構想計画に基づき、中心市街地における人口の郊外流出、大型商業施設や公共施設の郊外展開による都市機能の郊外分散、中心商店街の通行量の減少や空き店舗の増加等に対応するため、中心商店街の交通利便性を高め、集客向上に繋げていくことを目的に実施した。

（２）空き店舗対策（空き店舗活用チャレンジショップ）

平成 12 年度ＴＭＯ構想計画に基づき、中心市街地における空き店舗の増加や通行量の減少など、中心街の機能低下や集客力の低下に対応するため、空き店舗の活用方法の提案や、中心街での開業誘導等のため、やる気のある起業家等にチャンスを与え、新たなビジネスチャンスを掴むための情報化を支援することにより、既存空き店舗の流動性を高めるとともに新たな増加に歯止めをかけることを目的に実施した。

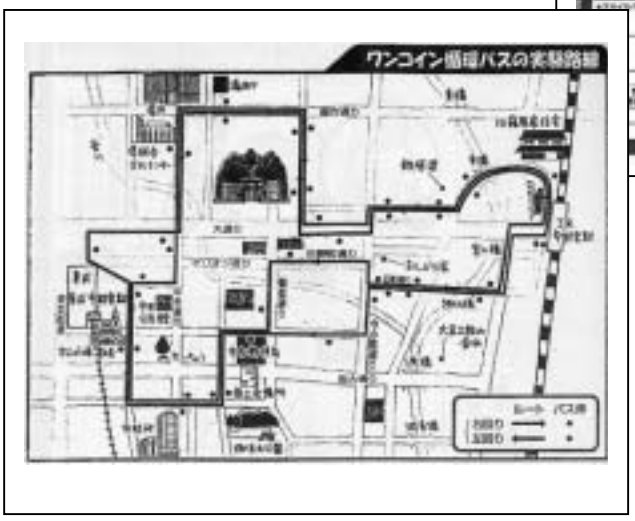
宇都宮市中心商店街の位置

２．事業内容

（１）都心循環バス実験運行事業

中心市街地の交通利便性向上や中心商店街の集客向上に繋げるために実験運行を行い、検証を行った。

１）運行期間　平成 13 年 7 月 19 日（木）～11 月 18 日（日）４ヶ月
２）運行方向　右回り・左回り
３）運行距離　右回り 5.3 ｷﾛ　左回り 5.6 ｷﾛ
４）運行時間　（月～金）午前 9:30～午後 5:00
(土・日・祝日)午前 9:30～午後 7:00
５）運行本数　（月～金）46 本
(土・日・祝日)57 本
６）運行間隔　両方向とも 20 分間隔
７）停留所　42 ヶ所（約 200m間隔）
８）車輌　小型バス 7 台（予備車輌 1 台含む）
９）料金　一律 100 円（小学生未満無料）
１０）運行結果　総運行本数：6,057 本（右回り 3,047 本、左周り 3,010 本）
乗客数：58,940 人（右回り 27,472 人、左周り 31,568 人）
一台当り平均乗客数：9.7 人 一日当り平均乗客数：479 人



実験バス(スマイルバス)と循環ルート

（２）空き店舗活用チャレンジショップ事業

中心市街地の空き店舗を活用し「広域集客施設として活用することによる賑わいの復活」「創業者の育成と中心商店街での開業等支援」、「新たな事業機会の創造に繋がる情報の推進」の３テーマに、起業を目指す人たちなどの営業実験店舗を運営した。

１）営業期間　　平成 13 年 9 月 4 日（火）～平成 14 年 2 月 24 日（日）
２）営業期間　　午前 10:00～午後 8:00
３）店舗名　　ＢＡＮＢＡ　仲見世１丁目・２丁目
店舗奥に「餃子大明神（宇都宮の名物）」を置いて、話題作りと来店者の回遊性を高めた。
４）場所　　宇都宮市馬場通り２－３－５　アオショービル・晃商ビル
５）出店者　　10 店舗（小売業・サービス業）

宇都宮市の目抜き通りに面したチャレンジショップ。奇抜な概観がひときわ目を引く。「餃子大明神」のアイデアで話題性もあった。

「BANBA 仲見世かわら版」という定期刊行物を発行して、広報に努めた。

「起業家育成」という主旨から、経営のノウハウを学ぶ研修会も開かれた。

【　効　果　】

（１）都心循環バス実験運行事業

実験運行事業は、総体的に好評で、特に運行ルート、運賃、バス停間隔、運行頻度に高い評価を受け、運行継続の要望が非常に強かった。また、徒歩・自転車・自動車からの利用者もあり潜在的なバス需要の掘り起こしに繋がったといえる。さらに中心部への外出頻度やお店への立ち寄りが４割程度増えたとするアンケート結果からは、購買効果を含め中心市街地活性化に有効であった。

１）中心部への外出・お店の立ち寄り頻度の増加

２）市民の高い評価

３）強い運行継続の要望

４）新規バス需要の掘り起こし

マスコミもバスの成果を報道

（２）空き店舗活用チャレンジショップ事業

１）来客状況

・土・日曜日で 470 人超、平日で 210 人超

・立地の良さ、店舗外装・内装の良さ、「餃子大明神」という話題性など、しっかりしたコンセプトをもって作り上げたことなどが功を奏した。

２）売上・インキュベート状況

・平均月売上 49 万円～4 万円と店舗による格差が大きい。

・中心市街地での開業店は無いが、郊外や市内において 3 店舗が開業している。（チャレンジショップには、当初 10 店舗が出店し、途中で 3 店舗が退店している）

３）事業の認知度

ＴＶ、新聞、雑誌等、パブリシティーを中心とした広報により、市内・県外に対する認知が図れた。

雑誌･新聞掲載記事

【課題・反省点】

（1）都心循環バス実験運行事業

1）事業採算性

継続運行のためには、積極的なＰＲ等の利用促進を図り、利用者を増加させていくと同時に、サービスレベルを落とすことなく、運行に係る人件費等をはじめとする運行費を軽減し、採算性を確保すること。

2）運行時間等

運行時間の拡大、定期券利用者への対応など

3）広報

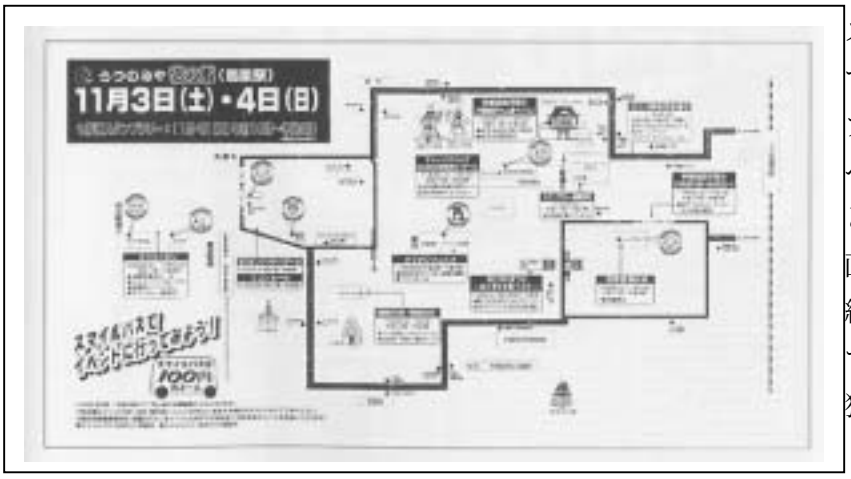
バスボディーデザインの工夫など

4）商店街との連携

商店街の販売促進と利用促進策との連携など

5）その他

各種割引（一日乗り放題券、団体割引券）など



スマイルバスを利用して、チャレンジショップをはじめ、市内のイベントを見て歩こう！というタイアップ企画。いくつかの事業を結びつけた企画を広報することで相乗効果を狙った。

（2）空き店舗活用チャレンジショップ事業

1）集客には話題づくりが有効であり、コンセプトの重要性が確認できた。

2）全体の運営が個店の自由度を制限することは避けられないが、できるだけ個店の独自性を尊重することが望ましい。

3）出店者教育が重要。

4）地元商店街とのコミュニケーション不足。

5）補助金終了後の継続運営が難しい。

話題を集めた『餃子大明神』。左が焼餃子大明神（長寿健康、事業繁栄）、右が水餃子大明神（夫婦円満、恋愛成就）。間口が狭く、奥に細長い２つの店舗の一番奥に、この祭壇を置き、客の回遊性を高めることも狙った。

【　教　訓　】

（１）都心循環バス実験運行事業

循環バスを活用した商店街活性化事業であることから、事業実施に際しては商店街との十分な協議をし、合意形成を図り、協力体制を整えておくことが必要である。

（２）空き店舗活用チャレンジショップ

空き店舗を活用しての事業であり、いかに継続させるかが大きな課題と言える、単年度で終了して以前の空き店舗に戻すのでは意味が無い。そのためには補助金なしでの運営システムの構築が必要であり、オーナーを含めた地元商店街の主体的役割が重要である。

【関連ＵＲＬ】

宇都宮商工会議所　http://www.tsinet.or.jp/utsunomiya-cci/